

今月から設備更新を順次推進

桂スチール(岡山) 第1〜3工場と玉野工場で



三木社長

について明らかにした。

第1工場では今年3月から溶接機、仮組機を各2台、第3工場でレーザー切断機と一次加工用の孔あけ機、

切断機、開先加工機、ショットブラストなどを数台、自動ガウジング機を各工場

で3台リプレースする。

これまで三菱エンジニアリング製の溶接ロボットを14台保有しているが、各工場に各2台増設し、全体で

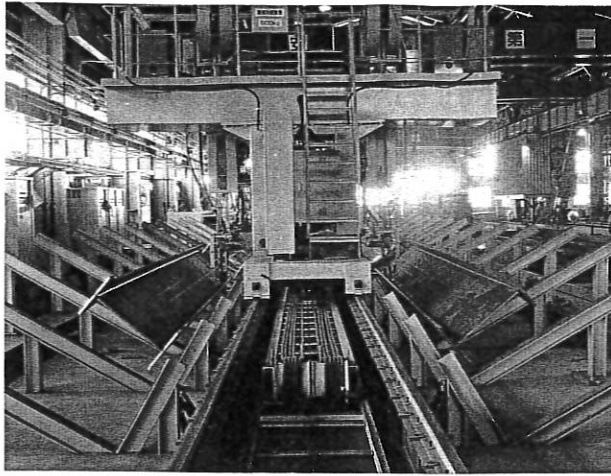
20台体制へ移行させる。

さらに玉野工場では、隣接地に建設予定の小板専用工場へアイトレーサー、プラズマ切断機を各1台新設する。

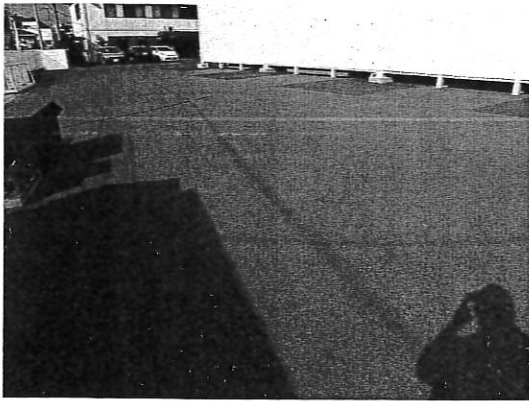
また、板継ぎ加工の需要が増加していることから、「玉野工場敷地内に当該加工専用の簡易建屋を建設し対応していく」という。

今回のリプレースと新設計画について三木社長は

「主要な設備は今後2年以内に実行する。BHの需要



BHラインが本格稼働



簡易建屋建設予定地

は鉄骨需要の伸びに比例して当面増加するだろうが、量を求めるのではなく、あくまでも効率化を狙いに投資する。今回はその第1段階で、8月までに完了させた

い」とし、「4月以降、母材、電気料金、溶材、運搬費など諸経費が上昇するのは明らか。各工程で投資を行うことによりコストダウン策を進めていかなければ、利益を確保することが難しい」と話す。

同工場はすでに溶断分野でレーザー切断機、プラズマ切断機、プレーナー、マキニング、平板用開先加工機、BH分野で溶接機、組立機、矯正機などを保有。岸壁に30tの水切りクレーンを備え、2000tクラスの船舶横付けが可能で、同クレーンと工場の間にある国道下にレールを敷き、材料、製品の搬入に活用。海上輸送の実現で大型サイズの鋼板から製作できる。

また、溶接H形鋼製作工場認定制度に基づき先月、審査機関である日本鉄骨評価センターで認定区分「AA」の審査を受けている。

「合格できれば4月から関係各所へPR活動を展開していく」方針で、「第1〜5工場ではISO認証も取得しており、玉野工場でも同様に準備を進める」という。同工場の従業員数は現在約20名で、そのなかには外国人技能実習生3名が含まれている。

同工場でのBH製作が本格化したことで、第1工場と合わせ生産量は月間5000t強、溶断が6000t強、第3工場で梁加工が1000t強、一次加工が1800〜2000t、母材を中心に全体で約2万t強在庫している。

ここ数年厳しい需要環境が続いたなかでも常に高いリピート率を確保し、業界のトップを走り続けている。「当面、現在の需要推移から判断すると、5年以内に設備投資、社内工程のプロセスの見直しなどを実施して効率化を進める。次世代のための人材教育にも力を入れていく。今年も例年同様に入力7名の新卒者を採用する予定だ。また、BH加工は建築だけでなく、たとえばプラント関連なども今後、対象分野となっていく。常に顧客ニーズに耳を傾け、それに応えていくことがわれわれの使命。今後も改善活動を続けていく」(同)

「主要な設備は今後2年以内に実行する。BHの需要